



## 「分母と分子」

今日の読売新聞「こどもの詩」から

「分数」  
分数を習った  
「分母」 「分子」  
あれ？ 「分父」がない  
パパちょっとかわいそうだね (小4児童)

思わず笑った。笑いながら「パパはそんなもんだよ」と、その子に伝えたくなくなった。でも、この小4のパパは家族の中で存在感があって、大事なパパなんだろうなとも思った。

この微笑ましい詩を読みながら、「分母・分子って何？」となる生徒はいないよな、と少しだけ不安になったが、そんなことはないはずだとかぶりを振る。

でも、分数の計算が苦手な生徒がいるのも事実。

小4で学ぶ算数が理解できずに、中学校数学を学ぶことは辛いだろうと思う。

9月5日付の内外教育に、ある都立高校の取組が紹介されていた。

それは、「学力を物差しにしない高校教育への挑戦」とあり、「学力」に代わる物差しとして「社会へつながる力」を地域ぐるみで育てる取組の紹介だった。

その背景として、次のようなことがあると書かれてあった。

取りあえず進学、奨学金を借りてでも進学さえすれば幸せな未来が待っている、そのような「学力神話」が社会全体にある。

しかし、大学に入ったものの学力不足や家庭事情で中途退学して、奨学金がそのまま借金となる。何とか大学を卒業しても非正規雇用の就労を余儀なくされる。

そんな事例が学力下位層の高校では後を絶たない。 とのこと。

一方で地域企業は人材確保に苦勞しているから、生徒を社会（地域）へつなげることで、地域の活性化までつなげていきたいという構想であった。

私は、いわゆる主要5教科の点数で人生が決まるような「学力神話」を信じていない。

今月2日に行われた運動会では、学力の点数では計れない「よさ」があふれていた。

準備や片付けに汗を流す姿、応援で後輩に丁寧に指導する姿、解団式で見せた団結力・・・。

毎日の学校生活の中でも、挨拶がととてもさわやかになってきた生徒や、サイレント清掃に真剣に取り組む生徒など、学力外の「よさ」がたくさんある。

そんな「よさ」（非認知能力）が、きっと「社会へつながる力」になるのだと思う。

とはいうものの、わからない授業を50分聞き続ける辛さを忘れてはいけない。

学校は学ぶ場所。そして私たちは学びを支える（教える）プロ（でなければならぬ）。

毎日の授業の中で、生徒が「わかった」「できた」「楽しかった」と感じられる授業を。

社会へつなげるためにも、「わかった」を一つでも増やしていきましょう。